

Forest通信 令和3年 2

No.384

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター



高尾山のいきものたち

ウラギンシジミ

(シジミチョウ科)



オレンジの模様が目を引く小型の蝶。閉じた翅は白色で、広げると茶褐色に雄は橙赤色、雌は白色の斑紋がある。平地から低山の樹林地や公園などで春から秋にかけて2~3回発生し、葉や地面の上でよく見られる。腐った果実や獣糞などで吸汁し、地面で吸水もする。成虫は、常緑広葉樹の葉裏で越冬し、暖かくなると飛び出す。

幼虫は野山に繁茂するクズ、フジなどの蕾や花を食べる。体色が、葉や茎と似た緑や花に似たピンク色になり、天敵に見つかりにくい。さらに、体を刺激すると突起から花火のようなブラシ状の部分を出し入れし、クモや昆虫などの天敵を錯乱させて身を守っている。小さな幼虫でも、驚くような方法で自然の中を生き抜いている。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.57

ヒノキ
(ヒノキ科)

ヒノキは、建築材として第一級の木材で、2千年を超え大きなものでは樹高50m、直径2m以上に達するものもあります。本州中部から九州に分布し、高尾山ではスギとともに多く植栽され「江川ヒノキ」などの高齢級ヒノキ林もあります。

ヒノキの名前の由来は、「火の木」、最高の木を意味する「日の木」や「霊(ひ)の木」の説があります。

材は、辺材は淡い黄白色、心材は淡い黄褐色~淡い赤色。辺材の境目ははっきりしていない。木理は通直、肌目は緻密、独特の香りと光沢をもち、狂いが少なく、耐朽性も高いです。木目の美しさ、香りの良さ、千年以上とされる耐朽性や耐水性の高さから神社仏閣などに使用されています。それ以外に仏像、浴槽、風呂桶、簀の子、まな板などにも利用されています。

江戸時代の木曾では、サワラ、クロベ、アスナロ、コウヤマキと共に木曾五木として幕府によって厳重に保護されてきました。(皿)



ヒノキの材面



樹皮



特徴的な葉



大晦日から元旦にかけて、年末年始の高尾陣馬特別警戒を実施しました。今年度は新型コロナ対策の中で実施され、大晦日の17時から元旦の7時まで山頂への立ち入り禁止という、高尾山の歴史上希に見る対応となりました。また、迎光祭（例年では山頂の初日の出時に実施）も薬王院での実施ということで少々寂しい状況でした。

実施内容としては、高尾陣馬特別警戒連絡協議会の構成員として当センターより2名、東京神奈川森林管理署から4名の計6名が参加し、高尾山山頂から小仏城山間の登山道において山火事防止の目的で夜間パトロールを実施しました。例年は初日の出を目的として大晦日の夜から多数の人が訪れますが、今回は登山道にもほとんど人出はありませんでした。

そのため、パトロールとしては何のトラブルもなく無事に終了することが出来ました。参加した6名は、元旦の陽差しを浴びながら山頂を後にしました。（磯）



山頂の待機場所へ向かう職員



事故もなく無事終了

冬芽観察の季節です



ハクウンボク



アカメガシワ



キブシ



フサザクラ



ツルグミ



コマユミ



コクサギ



編集後記

当センター1階のクラフト室及び展示室は、新型コロナウイルス感染症対策のため、当面閉鎖しています。ご理解ください。

クラフト作品例



Forest通信 NO.384

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

